

繁華街周辺の居住者意識からみた繁華街と 地域コミュニティの持続的関係 その2

日大生産工(院) ○井上 裕哉 日大生産工(院) 宮尾 直希
日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

本稿は前項(その1)に引き続く一連の研究である。前項では商店街・大型商業施設に対する意識・評価、商店街と大型商業施設を同時利用する場合の実態・意識について整理した。

本稿では商店街・大型商業施設の利用に関する生活時間調査から商店街の持続性について考察する。

2. 調査概要

調査概要は前項と同様である。

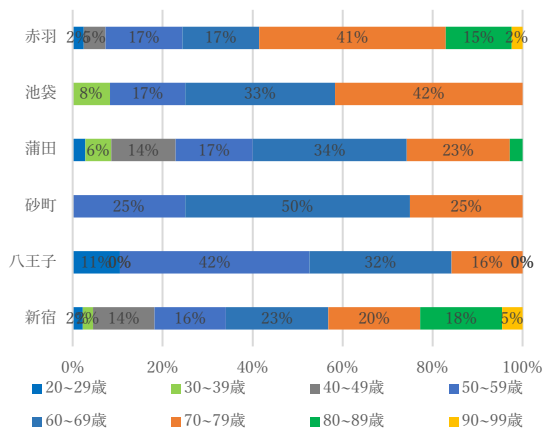


図-1 アンケート回答者の年齢

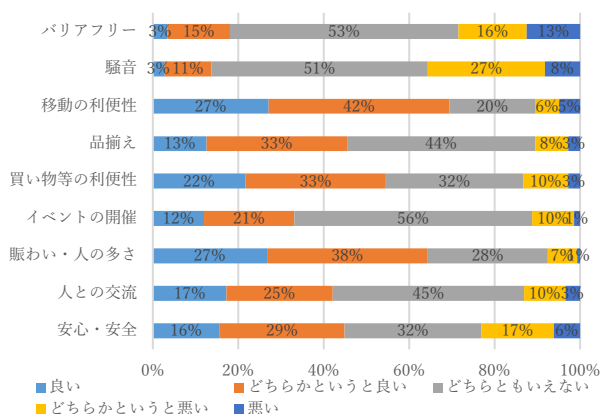


図-2 全体の商店街と大型商業施設が隣接している環境 (N=165)

3. 商店街・大型商業施設の周辺環境

3-1 全体の周辺環境(図2)

全体では移動の利便性、賑わい・人の多さが良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が75%前後を占めていた。一方で、騒音、バリアフリーについて良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が20%以下であった。

3-2 赤羽の周辺環境(図3)

赤羽は安心・安全、賑わい・人の多さ、買い物等の利便性、品揃え、移動の利便性が良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が60%前後を占めていた。一方で、騒音において良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が20%以下であった。

3-3 池袋の周辺環境(図4)

池袋は全体的にどちらかというが悪い、悪いと回答した地域住民の割合が多く、全ての回答において少なくとも50%以上を占めていた。また、良い、どちらかというが良いと回答した地域住民がいなかった。

3-4 蒲田の周辺環境(図5)

蒲田は買い物等の利便性、移動の利便性を良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が特に多い。また、騒音についてはどちらともいえないと回答した地域住民の割合が多く、次にどちらかという悪いと回答した地域住民が多いことがわかった。

3-5 八王子の周辺環境(図6)

八王子は移動の利便性、イベントの開催、買い物等の利便性について良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が60%と多い。

3-6 新宿の周辺環境(図7)

新宿は賑わい・人の多さについて良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が80%程度と多い。また、移動の利便性について良い、どちらかというが良いと回答した地域住民の割合が60%以上を占めている。しかし、安心・安全、騒音、バリアフリーについて、

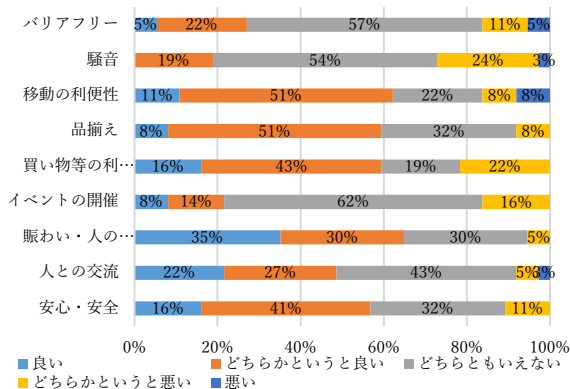


図-3 赤羽の商店街と大型商業施設が隣接している環境 (N=42)

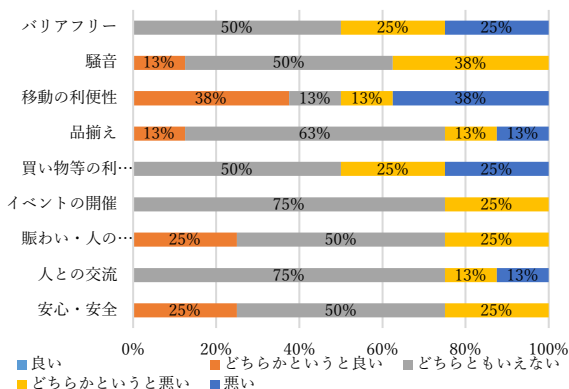


図-4 池袋の商店街と大型商業施設が隣接している環境 (N=12)

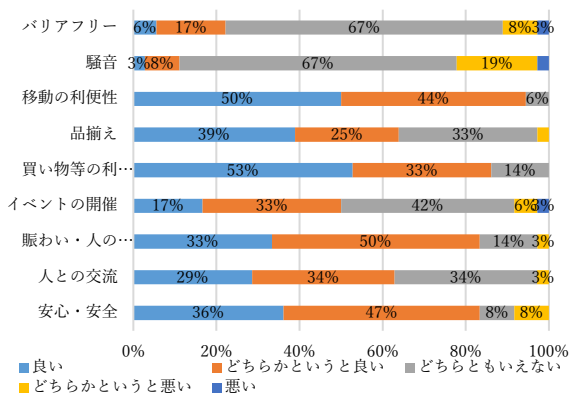


図-5 蒲田の商店街と大型商業施設が隣接している環境 (N=36)

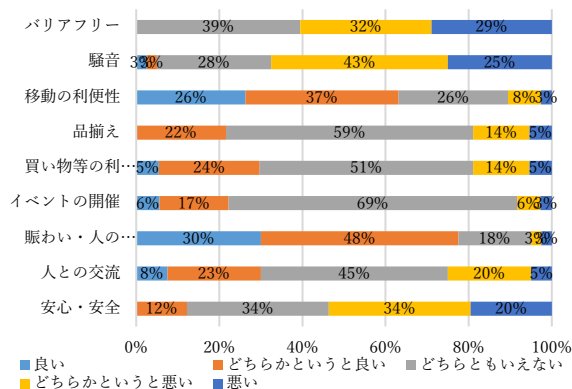
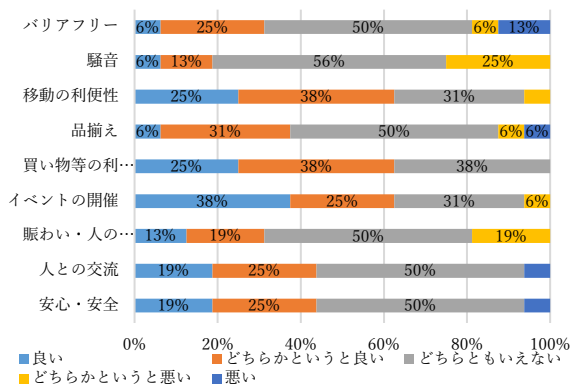


図-7 新宿の商店街と大型商業施設が隣接している環境 (N=46)

どちらかという悪い、悪いと回答した地域住民の割合が50%以上占めている。特に、騒音において良い、どちらかという良いと回答した地域住民の割合が10%以下であった。

4. 繁華街周辺居住者の生活時間調査 (表1.2.3.4.5)

生活時間調査においては既往研究に準じて実施しており、余暇活動分類は余暇活動実態調査より得られた活動実態に基づき13分類で整理されている。

代表的な平日・休日における対象地域ごとの分野別合計時間は、平日・休日の活動に対して、その分類ごとにまとめ、各所要時間を調査しその結果を対象地域ごとに合計したものである。

代表的な平日・休日における対象地域ごとの分野別活動発生量は、以下の通り特定している。

$$\text{活動発生量} = (\text{活動に費やした時間}) \times (\text{活動を行った交数})$$

時間帯別活動発生量の内訳は、各対象地域ごとに30分置きのどの時間帯で分類別活動発生量が生じているかを示したものである。

赤羽は14~18時の間のショッピングが一番大きいボリュームになっていることがわかる。また、朝食・昼食・夕食時に飲食のボリュームは大きくなることわかる。

池袋は13~18時の間のショッピングが一番ボリュームが大きくなっていることがわかる。また、昼食時のボリュームも大きくなっているが、朝食・夕食時のボリュームは昼食の50%前後であることがわかる。

蒲田は16~22時の間の飲食が一番大きいボリュームになり、朝食・昼食が同じボリュームになっていることもわかる。また、ショッピン

